

『鶴の恩返し』という民話があります。罾に掛かった鶴が、おじいさんに命を助けられたことから、自分の身を削って恩返しをするという話です。

恩返しは単なるお返しとは違い、「命」を救われたことに対して、何とか恩返しせずにはおられないという気持ち根底に強くあります。

T氏は、N市内で経営コンサルタントとマンション経営をしている倫理法人会です。市内で会議室を有しているホテルは一軒だけで、ここをモーニングセミナーの会場として使っていました。

三年前、この地に大手企業が進出してくることとなり、一万円近くの工事関係者が市内に入ってきて来ました。人が増えることは経済効率が上がリ、喜ばしいことではありましたが、その反面、モーニングセミナー会場が使いにくくなるという困った事態が起こりました。

多くの人員が移動してきたために宿泊施設が必要となり、モーニングセミナーで使用しているホテルもその一つとなつたからでした。宿泊客が殺到し、連日満室の状態です。以前より、モーニングセミナーを開催すると声が漏れるということから、隣室は空けてもらうようにしていたのですが、これも使用せざるを得なくなつてしまつたのです。

苦肉の策として、『栞』輪読の際の音量を落とし、倫理法人会の歌もやめました。しかし、このことよって全く士気は上がらず、倫理法人会の明るさが打ち消されてしまいました。

これでは会が衰退する と直感したT



身を捨ててこそ浮かぶ 恩返しの人生

え・牧えみこ

氏は、会場を換えることを考えました。しかし、条件に合う場所はありません。いよいよ切羽つまつた時、これは恩返しのチャンスだ と思つたのです。そしてなんと、自分で建物を造ることを決心したのです。自社に物件があるわけではなく、まったくのゼロからのスタートです。

そして翌日、いつも犬と散歩するコースを歩いていると、「これだ！」と思えるような建物が、T氏を待っていたかのように入りました。今までも何度か前を通り過ぎてはいたのですが、全く気にも留めなかつた建物でした。

高額の借り入れをして、この建物と土地を買い、改装して倫理法人会の研修やモーニングセミナー専用の建物としました。しかし厄介なのは、維持費がかかることでした。そこで、さらに多額の借金をし、アパートを新築・拡充することによって得た利益を充当したのです。

氏がここまでする理由は、いったい何だつたのでしょうか。

十数年前、他人の保証人を請け負つたことによるトラブルで死の選択を迫られた時、倫理法人会に出会つたお蔭で、見事にこの危機を解消できたからです。

「もし景気が悪くなり、建物の維持が難しくなつたらどうするのか」という外野の声には、「こうして生かされているのは倫理のお蔭だ。どのような結果が待ち受けていようと、それが倫理への恩返しだと考えている」と声を強めます。

恩返しの人生は、確信の人生です。その確信を前にして、一切の不都合は雲散霧消してしまふのです。